

TEISOTOYOKA NEWS

2017年5月号 VOL.99

企画・発行：(株)テイソートヨカ 四日市技術研究所
掲載している記事の無断使用を禁じます。〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

シロアリの飛翔する季節がきました

本格的な夏の到来を前にして、高温多湿を好む生き物たちが活発に行動し始めました。先日も東京のど真ん中の信号のレンズにミツバチが群がり、見えなくなってしまった様子がニュースで流れていました。今回は、ハチについてお話ししたいと思います。

スズメバチやアシナガバチの女王バチは秋に交尾し、精子を受精のうに貯め、樹木の切り株や朽ち木に入り込み越冬します。ゴールデンウィーク頃、越冬から覚め、卵を産むときに受精させると働きバチとなるメスが誕生します。未受精の卵はオスになり、雌雄を産み分けることができます。オスバチは、餌集めや巣作りをすることは一切なく、交尾のためだけに生まれてきます。社会生活を営むハチ類の不思議な生態です。

弊社が所属している（公社）愛知県ペストコントロール協会には、県民から年間 1000 件近いハチの相談が寄せられています。各社が独自で対応しているのを含めるとこれの何倍もの数字があるのでは、と想像します。もともと彼らが住んでいたところにヒトが住み込むようになったのですから、厄介者はこちらのほうかもしれません。



さて、相談が多いのはスズメバチ、アシナガバチ、ミツバチの仲間です。何れも毒針を持っています。この毒針は産卵管が変化したものということなので、刺すのは

メスだけということになります。ミツバチは、ヒトを刺すと毒針が抜けてしまい、体の一部が欠落するわけですから、刺した個体は死んでしまいます。皮膚に残された針と産卵管は、ポンプのように毒を送り続けるので、すぐ抜き取らなければなりません。指でつまむとさらに毒を押し込んでしまう可能性があるため注意が必要です。スズメバチとアシナガバチの仲間は、皮膚から針を抜くことができますので、何度も刺すことができます。

なんととっても最強はスズメバチで、その中でも土中に巣を作るオオスズメバチは一番大きく生態系の頂点に君臨しています。数万匹のミツバチの群れが 10 匹位のオオスズメバチによって絶滅させられることも珍しくないようです。二ホンミツバチは、オオスズメバチに果敢に取りつき、羽ばたいて自らの体温を上げ熱殺しようとはしますが、セイヨウミツバチは、なす術もなく噛み殺されてしまい、無防備な幼虫は食べられてしまいます。

最近、テレビでタレントさんを使ってスズメバチの巣を取り去るのをよく観ますが、スズメバチに刺されアナフィラキシーショックというアレルギー反応を起こし亡くなる方が、年間 20 人ほどおみえになることを考えると、ずいぶん危険なことと心配しています。また、巣を取り去っても「もどりバチ」対策をしないといけません。このあたりの情報が正しく発信されていないことは残念です。

テイソートヨカでは、生態にあったハチの駆除をしています。前述しましたが、特にスズメバチは、刺傷被害に遭うと大変なことになる可能性があります。ハチの巣をみつけたら、ご相談下さい。MK

参考図書：山内博美著「都市のスズメバチ」（2009）



今月のオススメ インテリアタイプのムシポンポケットが新しくなりました。



ムシポンポケット Plus

- 紫外線反射特殊コーティングにより捕獲力 UP
- 前面・側面のスリットにより全方位から誘因可能

捕虫器としてベストセラーのムシポンシリーズに新しい仲間が増えました。いずれも新型ランプの採用によりランプ寿命が前モデルの2倍の**1年間**となりました。

効果的に使用するには 1.5m位で誘虫灯の光が外にもれない場所が適切です。



ムシポンポケット3

- 前モデルムシポンポケット2で好評だったデザインを継承

自然の復元力 Vol. 78

地球は「昆虫の惑星」といわれているように、地球上の殆どの方が行ける場所を調査すると、どこでも昆虫の生息がみられます。長い歴史の間に、昆虫は進化し、環境に適応した種が生き残りを賭けて戦い、様々な環境に勝ち残ってきている証拠と思われる。そうして、昆虫がすでに生活している環境に、人間があとから誕生し、昆虫の生息する生活圏に侵入し、生息圏を拡大し続けていると考えられます。地球では昆虫が先住者であり、そこに人が移住してきたというような関係ではないのでしょうか。そうして、人が誕生してから、昆虫との戦いの歴史が始まったといえましょう。今回は害虫について少し考えてみることに致します。

我が国の歴史において、害虫といえばウンカとメイチュウが真っ先にあげられます。どちらも稲の害虫です。日本で稲作が始まったのは、およそ2200年前の縄文時代末期の頃に、朝鮮半島から九州地区に入ってきたものと考えられていますが、ウンカの大発生による稲の大被害が生じた記録は701年が初めてのことです。100年ごとのウンカ大発生数調査記録（末永ら「稲ウンカ・ヨコバイ類の発生予察に関する総説」（1985））によると、ウンカの大発生は1600年代まではまれであったのが、1700年代には27回、1800年代では25回、1900年代になると40回と急増しています。このウンカ発生の急増の背景には、肥料の使用や牛馬による農耕など稲作技術が革新したこと起因していると解析されています。また、一方では、1967年7月紀伊半島潮岬南方約500kmの海上で、気象観測船が大量のウンカの飛来を観測したことから、主にベトナムからウンカが日本に飛来してくることが分かり、加えてウンカの飛来数と九州地区の大被害とに相関性があることも分かりました。このようなこと等から、稲作の発展によって、ウンカが害虫化したと思われます。

このようにして、昆虫の害虫化の多くは、農業分野から生まれてきたものと考えられます。現在では、害虫は多様化しています。地球上の害虫には、衛生的に、経済的に、また、農業面において、人類に様々な害を与える昆虫がいます。衛生的には、人の健康を害する病原菌を伝播する吸血性昆虫、刺咬・皮膚炎をもたらす昆虫、アレルギーを惹起する昆虫や精神的苦痛をもたらす昆虫などを指します。経済的には、家屋・家具等を食害したりして経済損失をもたらすものや、食品工場、医薬品製造工場、精密工場などで、製品に混入して商品価値に損失を生じる昆虫などが挙げられます。農業面とは、土地を利用して有用な植物・動物を育成して得た生産物を加害する昆虫や農産加工物や林業も含む農作物を加害して、収穫率を悪化させる昆虫をいい、これらを農業害虫といいます。主な害虫はこの衛生的にと農業面の2グループの昆虫群になります。害虫は人に対して親和性が高い昆虫類といえます。人間社会と同じ環境で生活している昆虫類は、ほぼすべて害虫とみなされて対策を求められているのが現状と思われます。(Sin)

※参考図書：石井象二郎「昆虫学への招待」岩波新書（1976） 小山重郎「害虫は何故うまれたのか」東海大学出版会（2000） 緒方一喜ら「生活環境の害虫獣対策」（財）日本環境衛生センター（2010）

今月のオススメ STRONTEC：コンパクトで設置場所を選ばない室内用の飛翔昆虫防除器です



（交換用カートリッジ）

微粒子状の薬剤噴霧で室内の飛翔昆虫の防除を自動で行なう防除機器です。ピレスロイド系の薬剤によって飛翔昆虫に対して即効性がありつつも薬剤の残留は少なく、煙も出ないのでオフィスや飲食店の客席にも安心してご使用いただけます。単三乾電池 2本の電池駆動で最長3ヶ月使用でき、高さ23.5cm×奥行4.5cm×幅6cmとテレビのリモコンサイズの本体は電池と薬剤を含めても230gと軽く、両面テープでも壁面に十分に設置が可能です。



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理
株式会社テイソートヨカ

IPM・コンサルティング・異物同定分析
有害生物（ネズミ、ゴキブリ等）管理・ノラバト飛来防止施工

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info-teiso@teisotoyoka.com

本社・名古屋東営業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並2丁目334番地の2	TEL 052-891-8311	FAX 052-891-8440
名古屋西営業所	〒453-0818	名古屋市千代田区千代通4丁目18番地	TEL 052-482-6591	FAX 052-482-8778
三重営業所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜4005番地1	TEL 059-345-3571	FAX 059-345-3572
岐阜営業所	〒501-6264	岐阜県羽島市小籠町島4丁目61番	TEL 058-392-6454	FAX 058-392-6407
北陸営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町夕47番地1	TEL 076-266-6474	FAX 076-267-6480
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上中2丁目1番7号	TEL 025-283-6474	FAX 025-283-6497
四日市技術研究所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜4005番地1	TEL 059-325-6431	FAX 059-325-6430